米沢支部「治安維持法成立から100年」(藤田廣登論文)学習会
1月24日、置賜文化センター(記事　2頁)

事実を知らせることの大切さ

上山支部
橋本喜代子

署名活動に取り組んで

私は、この度の「わが青春つきるとも－伊藤千代子の生涯」の映画を観て、ひたむきさ・勉学心・知性・不屈さに感動し、憲法無視で軍拡・軍事体制づくりに進む日本の現状で自分に出来ることをしなければ、と思い会員になりました。

支部で署名活動が提起され、署名用紙の訴えを読み、多くの人に事実を知らせることが大切と思いました。

近所の方、知人を訪問し、次のようなことを聞いてもらいました。

ロシアがウクライナに侵略しているけど、ロシア国内では戦争反対者を処罰していること・日本でも侵略戦争に進んで行ったとき戦争反対者・天皇のために命をささげるのではなく国の主人公は国民だと訴える人を治安維持法という法律で逮捕し、拷問し処罰していったこと。

署名用紙の小林多喜二もその一人で、若い有能な作家だったけど、布団針を太ももに刺される・指先の爪の間に針を刺されるなどひどい拷問を受けその日のうちに殺されてしまい、同じようにして命を奪われた人が何人もいたこと。

世界の主要な国々では謝罪・賠償が進んでいるけど、日本の国では、毎年、国会で取り上げても「あの時は、適法だった。」と言って向き合わず、謝罪もせず、賠償もしないこと。

そして最後に、「声を大きくしていくことが『ふたたび戦争と暗黒政治を許さない』ことになると思うから、是非、署名して下さい。」とお願いしました。

真剣に話を聞いてくれ、自分だけでなく「家族の分も」と言って署名用紙を預かってくれる人もいました。最終的に五十人分を書いてもらいました。

事実を知らせることの大切さを改めて考えさせられました。

不屈

「不屈」No.584付録
山形県版 No.402
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
山形県本部
〒994-0073
天童市寺津263
瀬野幸男方
TEL.FAX.
023-654-3255

二月二〇日 多喜二忌 没後九十周年

「・・・俺たちの運動皆今始められたばかりさ。何代がかりの運動だなア　何代がかりの運動！」

「東倶知安行」より

藤田廣登論文「治安維持法成立から百年」から学ぶ

―今、山形県同盟は、全支部・全会員で藤田廣登論文「治安維持法成立から百年―21世紀を真に人権と平和の世紀にするために」をテキストにして、同盟運動(その意義や課題)の学び直し運動を行っています。寄せられた感想を紹介します。

米沢支部で学習会

米沢支部長　鈴木　淳子

1月24日(火)、天気予報では10年に一度の大寒波が来るという日程でしたが、葉書での案内や新聞への折り込などで、11名の参加で「治安維持法成立から百年」藤田論文学習会を持つことが出来ました。藤田論文を出席者が交代に読み合わせをし、もっと知りたいことや感想を話しながら進行して「三」まで読み進めました。残りは各自で読むことになりましたが、参加した方の感想を紹介します。「治安維持法そのものの目的と成り立ち弾圧の実態など学ぶことができて良かったです。私としては初めての学習の場でした」「国賠同盟の会員になり何年かたちましたが、今回このような学習会に参加していろいろなことがわかりました。無知であることがとても恥ずかしい事でした。今回の学習の冒頭には残虐な取り締まりが赤裸々に描かれていることに怒りがこみ上げるばかりです。人間扱いされていない、人権が無視されていた時代に逆戻りすることはみんなで阻止しなければと切に願います。」

現在米沢支部の署名集めの活動は出遅れていますが、感想にあったように戦前のような時代に逆戻りすることを阻止するために、支部で声を掛けあいながら進めていきたいと思います。

同盟結成からの歩み理解を深める

鶴岡支部　須田　正和

「歴史」に苦手意識をもつ私にとっても、治安維持法やそれに纏わる様々な過去の経緯を知ることは、今日に繋がる考えの拠りどころになります。一〇〇年前に成立した希代の悪法と言われる治安維持法によって、どれほどの人が弾圧され犠牲になったのか細かい分析があります。多くの資料から、治安維持法による特高の取締りや拷問の様子が詳細に書かれてあることで、その実態が、伊藤千代子の映画に描かれているよりもさらに酷いものであったことがわかります。治安維持法は、一旦成立してしまうと一層の改悪が加えられて、特高の際限のない弾圧へ繋がっていきました。まさに暴走状態になったのが犠牲者を大量に生み出す原因になったと思います。

国賠同盟の成り立ちとその経過がまとめてあり、同盟の結成からの歩みについての理解が深められます。国会が「治安維持法犠牲者国家賠償法」を制定することで、謝罪と賠償要求が実現できるとあります。そのための、50年以上も続く国会請願の取り組みには驚かされます。請願を支える粘り強い署名運動も継続されています。20年間の治安維持法体制をしっかり反省し、賠償をしてこなかった国に対して改めて憤りを感じ

ます。

21世紀を真に人権と平和の世紀に！

山形支部 青木 勝

治安維持法の成立から2025年で百年を迎える。しかし、日本政府はいまだに治安維持法は間違っていたということを認めずにいます。

こうした中で大事だと思ったことは、1968年の治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟結成総会で「ふたたび戦争と暗黒政治を許してはならない」とのスローガンを確立し、この立場で国賠同盟の運動方向を明確にしたことです。この運動方向は私たちが毎年取り組んでいる国会請願署名運動の請願項目となっています。

岸田政権の大軍拡と日米の軍事同盟と共同訓練のかつてない強化が進み、戦争の危険が高まるなか、まさに国賠同盟の出番の時です。国会請願署名を大きく広げることこそ、大軍拡阻止と「ふたたび戦争と暗黒政治を許さない」ための確かな力になることをしっかり心に刻みたいと思います。

論文では、日弁連は1993年の第36回人権擁護大会の決議や、1968年の第23回国連総会で「戦争犯罪及び人道に反する罪に対する不適用に関する条約」が成立したことを紹介しています。国賠同盟の運動の正当性に確信をもち、多くの方に伝えていきたいです。

また、筆者は「我が国は国家的権力犯罪であった治安維持法にどのような『決着』をつけて戦後を出発させたのか」という問題意識を投げかけています。これに応え、決着の過程を詳しく知ることで政府がいまだに治安維持法が間違っていたことを認めない理由も、日本の政治が今日のようになったことも見えてくるからです。

論文を読み終え論文の標題に筆者の熱い思いが込められていることが分かりました。

21世紀を真に人権と平和の世紀に！

「わが青春つきるとも」伊藤千代子の生涯」最上地区上映会に128名

1月22日、最上広域交流センター（新庄市）ゆめりあ「アベージュ」（90座席）にて「わが青春つきるとも」の上映会（2回上映）が行われ、128名が鑑賞しました。

上映に先立ち行われた、最上地区上映実行委員長佐藤忠志さんのあいさつ（要旨）を紹介します。

―今、「憲法を変えよう」とか、攻撃されてもいないのに外国の基地を攻撃できるようにしようとか、福祉予算は削って軍事予算を大きく増やそうなどという声も出ています。大企業のもうけを大幅に増やす中、年金や賃金は目減りし、貧富の格差はこれまでになく拡大しているといわれています。

それでも、今の私たちは、このような政治に賛成の方はもちろん、反対の方も、意見を表明し、支持する政党に一票を投じることができます。労働組合や農民組合を結成して、参加し活動することができます。戦争法に反対するとして、市民運動に参

加することができます。　しかし、みなさん。―戦前の治安維持法という極悪非道な法律のもと、人格は否定され、意見を発表することも、団結することも禁じられ、それを行えば、肉体的・精神的拷問を受け、若くして亡くなった先人たちもおりました。本映画は、伊藤千代子という女性を中心にした、それら先人の運動の記録でもあります。

今、この時代を生きる私たちが、この教訓に学びながら、日本国憲法を守り活用すること。労働条件を守り発展させること。何よりも人間としての尊厳が守られ、尊ばれる社会をつくる意味、などを考えていきたいものだと思います。

〈寄せられた感想から〉

▼尊い命をかけて、国民主権の国づくりを志した千代子さんの強い思いに感動しました。ひどい拷問、それに屈せず、強い思想を持った千代子さん、この思いを大切にして、新しい戦前にならないようにしていかねば。

▼映画の提示した社会問題はいまだに解決していない。不屈の精神で闘った千代子さんは大変すばらしい。この映画をきっかけに、世の中を良くしようという方が一人でも多くなればと思います。

うん、いい映画を観た

菅野(かんの)芳秀（長井市）

（西置賜地区上映会での感想「不屈西置賜」No・10から転載）

映画「わが青春つきるとも―伊藤千代子の生涯」を観た。映画の広告に「戦争と無権利の時代、反戦と主権在民を掲げ闘いに斃れた若き女性の真実の物語」とあった。硬い話かなと思ったが2時間を超える大作にもかかわらず、時間の長さを感じさせない。引き込まれた。

当時、侵略戦争への道をひた走った日本。国家の権力が肥大化し、国民を守るための国家が国民を守らず、逆に国民をして天皇制国家を守るための道具、侵略の尖兵に駆り立てていく。そして敗戦。日本の戦没者数（兵隊、民間人）は約３１０万人。目をそらしてはならないもうひとつの事実。日本はアジアを欧米列強から解放すると喧伝したが、実際は日本がアジアを抑圧し、あらゆる点で収奪し、いのちの犠牲を強いたこと。戦場となったアジア全域では２千万人を超える軍民が犠牲になった。日本国民も日本軍国主義の被害者なのだが、同時にアジアを抑圧した加害者の一員でもあるという重くつらい現実が残った。

もちろん日本国内にも反対者はいた。それらの人たちは日本の良心でもあったろう。たが、国家権力はその数少ない勇気ある人たちを次々と捕まえ、拷問を加え、投獄して行った。それを可能にしたのが治安維持法。「他民族を抑圧する民族の人民もまた決して自由ではない」この格言通りの世界がそこにあった。

この映画は、高まる軍国主義の中で、勇気をもって反対した女性(たち)の物語だ。当時、女性には参政権が無く、「あゝ野麦峠」で知られる同じ長野県の、製糸工場の女性たちの労働争議などを挟みながら、立ちあ

がっていく女性たちの姿をも描いている。やがて治安維持法下、ことごとく弾圧され、圧殺され、日本は絶望的な戦争へと突入していく。そんな中、伊藤千代子も拷問の末、虐殺されていく。

この映画を観終わった後、感動と同時に、これは決して過去の話ではない、そんな思いが沸き上がってきた。今また、日本は膨大な軍事予算を計上し、自民党が掲げるGDPの2%を防衛費にすれば、世界第3位の軍事大国に。先制攻撃が出来る国。再び戦争出来る国への道を走り始めようとしている。良心が孤立させられ、平和を求める人たちが「伊藤千代子」になる前に、その道を止めなければならない。そんな気持ちにさせる映画だった。うん、いい映画を観た。

今後の県内上映会

▽北村山上映会 4月29日(土)
村山市民会館小ホール

▽鶴岡上映会
5月27日(土)～6月9日(金)
鶴岡まちキネ

鶴岡市教育委員会後援決定

治安維持法下における山形県の文化運動、教育運動への弾圧(下)

4、生活綴方教育への弾圧事件

「生活綴方事件」とよばれる教育運動への弾圧は、1940(昭和15)年2月6日村山俊太郎の検挙にはじまり、東北・新潟・北海道など全国で約300人の小学校教師たちが治安維持法違反で検挙された。

昭和の初期、東北地方の不景気・凶作はすさまじく、借金や小作料の不払いのために、娘の身売りに見られるように困難な生活状況だった。東北の教師たちは、この生活の現実を綴らせて、ものの見方・考え方・感じ方・生き方を育て、子どもたちが逞しく生き抜く力を身につけることをめざした教育活動を展開した。

戦前の教育は「教育勅語」にもとづく国定教科書によって行われた。教科書には「日本ヨイ国　キヨイ国　世界ニヒトツノ神ノ国　日本ヨイ国　ツヨイ国　世界にカガヤク　エライ国」などとあり、こうしたことを徹底して教えこんだ。しかし、小学校の「綴方」(現・作文)だけは国定教科書がなかった。教科書がないから、書くこと、読むこと、話し合うことも、自分たちで考えてやれるということで、教師たちは生活綴方教育に情熱を燃やした。

生活綴方運動は、上田庄三郎・小砂丘忠義らの同人誌『綴方生活』(29年)、秋田の成田忠久が29年に北方教育社を創立し機関誌『北方教育』を創刊したことよって全国へ広がった。35年には次第に東北6県を連ねる「北日本国語教育連盟」が結成、機関誌『教育・北日本』創刊、北方性教育運動へと発展した。「北方性」とは、地理的概念だけでなく東北特有の社会的経済構造、文化的・民族的まとまりなど多様な内容をもち、「生活台」と呼ばれた。

村山俊太郎は、教育労働組合運動で免職の後、新聞「日刊山形」の記者を務めながら北日本国語教育連盟結成に参加、37年復職後は北方性教育運動の理論的実践的発展に指導的な役割を果たした。

１９４０年２月、警視庁と協議した山形県の特高警察がまず村山俊太郎を検挙し、北方性教育運動は「貧困ナル農民ノ子弟ヲ、プロレタリア・リアリズムノ方法ニヨル生活綴方ヲ書カセルコトニヨッテ、封建制ニ対スル反抗ノ精神、階級意識ノ持チ主ニシ、コレニヨッテプロレタリア革命ニオケル同盟軍トシテ農民ノ意識ヲ培養シ、モッテコミンテルンオヨビ日本共産党ノ目的遂行ニ資スル行イヲシタルモノデアル」とデッチ上げた調書を作成し、東北六県特高課長会議を開き、東北から各県へと検挙を広げた。検挙されたどの人も、こよなく子どもを愛し、まじめな教育活動を行い、生活綴方が治安維持法違反になるとは考えていなかった。

生活綴方運動に関わった教師はほとんど根こそぎ検挙され、家宅捜査や尋問にあっている。村山俊太郎の他、清野高童、真壁仁（詩人）、国分一太郎、須藤義雄（ローマ字運動）、萩原勇、新関正吾などがいる。この弾圧によって自由に物言えない軍国主義一色の教育界になっていく。

〈参考文献〉後藤太刀味・阿部五郎著『探索・近代山形の社会主義運動』、高島真著『特高Sの時代』、田中新治著『教育運動史考』、池田道正・佐藤幸夫著『魂の道標―池田勇作と郁』、竹内丑松著『夜明けをめざして』、佐藤治助著『吹雪く野づらに』、真壁仁著『野の教育論』、『村山俊太郎著作集』、村山ひで著『愛するものたちへ』『明けない夜はない』、伊藤てる著『きっと時代はくる』、同盟鶴岡支部『不屈の人々』、県版『不屈』、『山形県警察史（下）』、『山形県史５』、『特高月報』

（文責　瀬野幸男）

おめでとう

鶴岡田川支部版「不屈」300号を発行

不屈
明けましておめでとうございます
支部版不屈 300号発行
不屈 No.583 付録
鶴岡田川支部版
NO. 300
治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟
鶴岡田川支部
22-7297 戸村宅
2023.1.15 発行

おくやみ

謹んでご冥福をお祈りいたします

◆梅津保一氏（北村山支部）
1月8日　81歳。

梅津さんは、山形県地域史研究協議会会長をはじめ様々な要職につきご活躍されました。国賠同盟では、「治安維持法犠牲者名簿」改訂版編集委員会代表として指導しておられましたが、完成途中でした。

また、「村山俊太郎・ひで顕彰碑」建立実行委員長を務めておられましたが、今春の完成を見ずに亡くなりました。北村山支部の会議にもいつも出席し、会を指導して下さいました。

◆須藤　誠一氏（鶴岡田川支部）
1月4日逝去　91歳

◆小関　崇夫氏（西村山支部）
1月31日逝去　82歳
朝日町議（5期）

冗談じゃありません
四十三兆の防衛予算

伊藤 摩耶(山形市)

岸田首相は二〇二三～二七年度の防衛費を現在の一・五倍に増やし、GDPの二パーセント、総額約四三兆円にすると発表。日本の防衛力を根本的に強化するため、財源として、一般会計の決算余剰金を充てる方針（けれど余剰金は今年度すでに補正予算の財源に充てられている）。今後の五年間では十七兆円が不足するが、その財源としてはコロナ対策、東日本大震災の復興財源の残金を遣い、どうしても不足する約一兆円は増税（一、法人税　二、たばこ税　三、復興特別所得税）で徴集めると言う。

冗談ではありません。市井の一主婦の私には四十三兆も十七兆も、金額としての実感は持てませんが、兵器は、人間と、人間が精一杯の思いを込めて造り上げたすべての物、文化を瞬時にして破壊してしまう物です。そんな兵器に遣う金は一銭であっても無駄遣い。しかもアメリカの中古兵器を買わされるのですから、四三兆は膨大な無駄遣いです。北朝鮮にしても海に落ちるミサイルの値段を国民生活に遣えば、どれだけ豊かになれるかと思っています。

また「敵基地攻撃能力」を「相手の領域で行う」というのは、言葉の上では成り立ちますが、結局は戦争することです。ウクライナの現状をテレビや新聞で見ると、侵略したロシアが悪いのは当然であるが、EUの国々や、日本の善意の市民の基金までがウクライナの武器になり、皮肉にも戦争を長びかせてしまっている。軍事対軍事、軍事力の強化や軍事同盟の強化だけでは、どの国であっても平和は実現できなくなっている。

日本が昭和二〇年代から現在まで戦争に巻き込まれないですんだのは、やはり憲法九条に基づいて、戦争を放棄してきたからであると思います。韓国は朝鮮戦争後、アメリカの要請でベトナム戦争に出兵。それ故、現在も徴兵制度が続き、高校では女子も軍事訓練が正教科になっている。私達は、九条に基づいて戦争を食い止めてきた戦後の日本の歩みにもっと自信を持ち、武力行使もせず、紛争の武力によらない解決を考えていく世界を目指すべきだと思います。軍事対軍事の対決の激化こそ戦争への道であり、果てしない軍拡競争は人類の不幸への道であると断言します。（山形一中・五中学区「九条の会ニュース」No.163より転載）

■**「年末募金」有難うございました。**物価高騰で出費の多い時期、しかも年金が減額される中で、多くの皆様からご協力いただき、ありがとうございました。

■「不屈」への原稿募集―「私と国賠同盟」をはじめ、会員の皆さんに伝えたいこと、評論、詩、短歌・俳句、絵、写真、どのような形式でも結構です。お寄せ下さい。

「大軍拡・大増税NO!」署名に取り組みます 国賠署名と一緒に広げていきましょう

2023.2.5 治安維持法国賠同盟山形県本部常任理事会

岸田政権は日本を「戦争国家」へ、歴史的大転換を図ろうとしています。侵略戦争の反省から生まれた「日本国憲法」を破壊し、大軍拡、大増税による世界第3位の軍事大国に、まさに戦前の復活です。当然、この戦争国家づくりは国民の反戦・民主主義運動への弾圧と表裏一体にすすめられることはいうまでもありません。

しかし、国会では大軍拡への翼賛化が進みつつあり、メディアも正面から全く取り上げない異常な状況にあります。これを変えるには草の根からの国民大運動以外にありません。

「平和、いのち、くらしを壊す戦争準備の大軍拡・大増税NO! 連絡会」(略称：大軍拡・大増税NO!連絡会)の署名運動が全国で始まりました。同盟山形県本部もこの署名運動に参加することを決めました。**この署名を前面に掲げ、私たちの国賠署名とセットにして、「ふたたび戦争と暗黒政治を許さない」を広く訴え、戦争か平和かの歴史的大闘争に全力で取り組むことを心から訴えます。**

◆差し当たり、署名用紙1枚を「不屈」に折り込みました。足りない方は、当該支部の事務局に連絡してください。黄色い署名(国賠署名)とセットに集め、支部事務局に提出してください。統一地方選挙の中でも、この二つの署名を訴え、同盟会員の候補者、反戦平和の候補者の当選に全力で頑張ります。

2023年 1月の支部ごとの到達点　2023/1/31現在

支部		山形	鶴岡田川	酒田	天童	米沢	上山	西村山	北村山	東置賜	西置賜	新庄	県本部計
個人署名	目標	2000	1200	1300	500	1000	200	500	500	650	500	—	10000
	到達	404	698	139	250	70	100	95	70	110	66	—	2002
団体署名	目標	50	60	80	20	30	5	50	20	50	10	0	500
	到達	5	40	5	6	0	1	18	11	6	0	0	92
会員	目標	80	60	60	25	27	10	42	20	34	20	—	400
	到達	76	50	45	18	24	7	38	15	30	16	6	325